

平成24年

沖縄県人口動態統計(確定数)の概況

目次

調査の概要	1
結果の概要	2
人口動態総覧の前年比較	6
人口動態総覧の年次推移	7
人口動態総覧全国類似県比較	9
死因順位の対前年及び全国比較	10
死因簡単分類別死亡数・死亡率の年次推移	11
悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率・死亡割合の前年比較	13
悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率の年次推移	14
死亡数・死亡率、死因簡単分類別	15
母の年齢別出生数と構成割合の年次推移	19
年齢別自殺統計の前年比較	21
人口動態総覧、性・保健所・市町村別	22
人口動態総覧(率)、保健所・市町村別	25
参 考	
全国の調査の概要	26
全国の結果の概要	28
人口動態総覧、都道府県別	29
人口動態総覧(率)、都道府県別	31

福祉保健部 福祉保健企画課

平成25年9月

調査の概要

人口動態統計調査は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の「人口動態事象」について、その実態を明らかにするために、各届出書によって作成された人口動態調査票をとりまとめたものである。

届出書は、出生・死亡・婚姻・離婚については「戸籍法」により、死産については「死産の届出に関する規程」により、市町村に届け出られるものである。

調査票は市町村で作成され、保健所・都道府県を經由して厚生労働省において集計し、人口動態統計が作成される。

本概況は平成24年沖縄県分（確定）を取りまとめたものである。

（厚生労働省公表 平成25年9月5日）

用語の説明

自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの

合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

平成24年：率の算出に用いた人口「人口推計：平成24年10月1日推計人口」

総務省統計局

沖縄県

全国

総数：1,401,000人

125,957,000人

男：687,000人

61,328,000人

女：714,000人

64,630,000人

平成23年：率の算出に用いた人口「人口推計：平成23年10月1日推計人口」

総務省統計局

沖縄県

全国

総数：1,393,000人

126,180,000人

男：683,000人

61,453,000人

女：710,000人

64,727,000人

結果の概要

1 出生数は増加

出生数は17,074人で、前年の16,918人より156人増加（全国は13,575人減少）した。また、出生率（人口千対）は、12.2で前年より0.1ポイント増加した。これを全国の8.2と比較すると4.0ポイント高く、その順位も昭和49年以降39年連続で第1位である。

1日平均出生数は46.8人であり、30分47秒に1人出生している。

出生数を母の年齢別（5歳階級）にみると、19歳以下、30歳以上の階級で前年より増加しているが、20歳～29歳の階級では前年より減少している。

合計特殊出生率は、1.90で前年より0.04ポイント高くなっており、全国の1.41と比較すると0.49ポイント高く、昭和60年以降28年連続で第1位である。

対前年比較

項目	出生数（人）	出生率	合計特殊出生率	全国順位	1日平均（件）
h24	17,074	12.2	1.90	1	46.8
h23	16,918	12.1	1.86	1	46.4
増減	156	0.1	0.04		0.4
全国（h24）	1,037,231	8.2	1.41		

母の年齢別出生数の対前年比較

	総数	～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～	不詳
h24	17,074	480	2,139	4,688	5,304	3,643	792	28	-
h23	16,918	445	2,256	4,735	5,251	3,483	726	19	3
増減	156	35	△117	△47	53	160	66	9	△3

2 死亡数は減少

死亡数は、10,626人で、前年の10,686人より60人減少（全国は3,293人増加）した。死亡率（人口千対）は7.6で前年より0.1ポイント低くなったが、全国の10.0と比較すると2.4ポイント低く、その順位も全国で最も低く、平成14年以降11年連続で第47位である。

1日平均死亡数は29.1人であり、49分27秒に1人死亡している。

対前年比較

	死亡数(人)	死亡率	全国順位	1日平均(件)
h24	10,626	7.6	47	29.1
h23	10,686	7.7	47	29.3
増減	△ 60	△ 0.1		
全国(h24)	1,256,359	10.0		

3 死因順位は悪性新生物が1位

死因別にみると、死因順位の第1位は悪性新生物で2,913人、第2位は心疾患で1,566人、第3位は肺炎で917人となっており、悪性新生物と心疾患では前年より増加している。第4位は脳血管疾患で834人、第5位は老衰で388人である。

全国順位では悪性新生物、心疾患、肺炎、脳血管疾患、老衰ともに47位である。自殺は前年の5位から33位となっている。

全国の死因順位は、第1位が悪性新生物で、360,963人、第2位は心疾患で198,836人、第3位は肺炎で123,925人である。この3大死因が死亡総数に占める割合は54.4%となっている。

対前年比較

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	悪性新生物		心疾患		肺炎		脳血管疾患		老衰	
	死亡数	率	死亡数	率	死亡数	率	死亡数	率	死亡数	率
h24	2,913	207.9	1,566	111.8	917	65.5	834	59.5	388	27.7
h23	2,837	203.7	1,530	109.8	935	67.1	917	65.8	347	24.9
増減	76		36		△ 18		△ 83		41	
全国(h24)	360,963	286.6	198,836	157.9	123,925	98.4	121,602	96.5	60,719	48.2

※平成23年の第5位は、自殺となっている。

※自殺について

男女比では男性の割合高く、78.6%となっている。

男性の内、40歳から59歳までの自殺者が41.9%となっている。

なお、人口動態統計での自殺者数と警察発表の自殺者数では、以下の理由により差異が生じる。

自殺者数に関する統計上の違い

	人口動態統計	警察の自殺統計
調査対象	日本における日本人	日本における外国人を含む
調査時点	住所地を基に死亡時点で計上	発見地を基に発見時点（認知）で計上
手続き上 （訂正報告）	不明の場合は自殺以外で処理し、死亡診断書等について訂正報告がない場合は計上しない。	捜査等により、自殺であると判した時点で計上。

（厚生労働省作成人口動態調査についてよくいただくお問い合わせより）

4 自然増減数は増加

出生と死亡の差である自然増減数は6, 448人で、前年の6, 232人より216人増加した。自然増減率（人口千対）は4.6で前年より0.1ポイント増加しており、順位は全国第1位である。

自然増減率がプラスの県は、本県以外に愛知県（0.9）、滋賀県（0.7）、神奈川県（0.4）、の3県である。

全国の自然増減数は、△219, 128人で前年の△202, 260人より16, 868人減少し、自然増減率も△1.7で前年の△1.6よりも減少している。

5 死産数は減少

死産数は507胎で、前年の556胎より49胎減少（全国951胎減少）し、死産率（出産（出生+死産）千対）は28.8で前年より3.0ポイント低くなっているが、全国の23.4と比較すると5.4ポイント高くなっている。

死産の内訳をみると、自然死産が243胎で前年より28胎減少し、人工死産が264胎で前年より21胎減少した。

自然死産率は13.8（全国10.8）、人工死産率は15.0（全国12.6）で、自然死産及び人工死産ともに全国より高くなっている。

6 婚姻件数は増加

婚姻件数は8, 842組で、前年の8, 401組より441組増加（全国は6, 974組増加）し、婚姻率（人口千対）は6.3で前年より0.3ポイント増加した。

これを全国の5.3と比較すると1.0ポイント高く、全国第2位である。
1日平均婚姻数は24組であり、59分26秒に1組婚姻している。

7 離婚件数は増加

離婚件数は3,634組で、前年の3,570組より64組増加（全国は313組減少）し、離婚率（人口千対）は2.59で前年より0.03ポイント増加した。

これを全国の1.87と比較すると0.72ポイント高く、その順位も平成15年以降10年連続で第1位である。

1日平均離婚数は10組であり、2時間24分38秒に1組離婚している。